

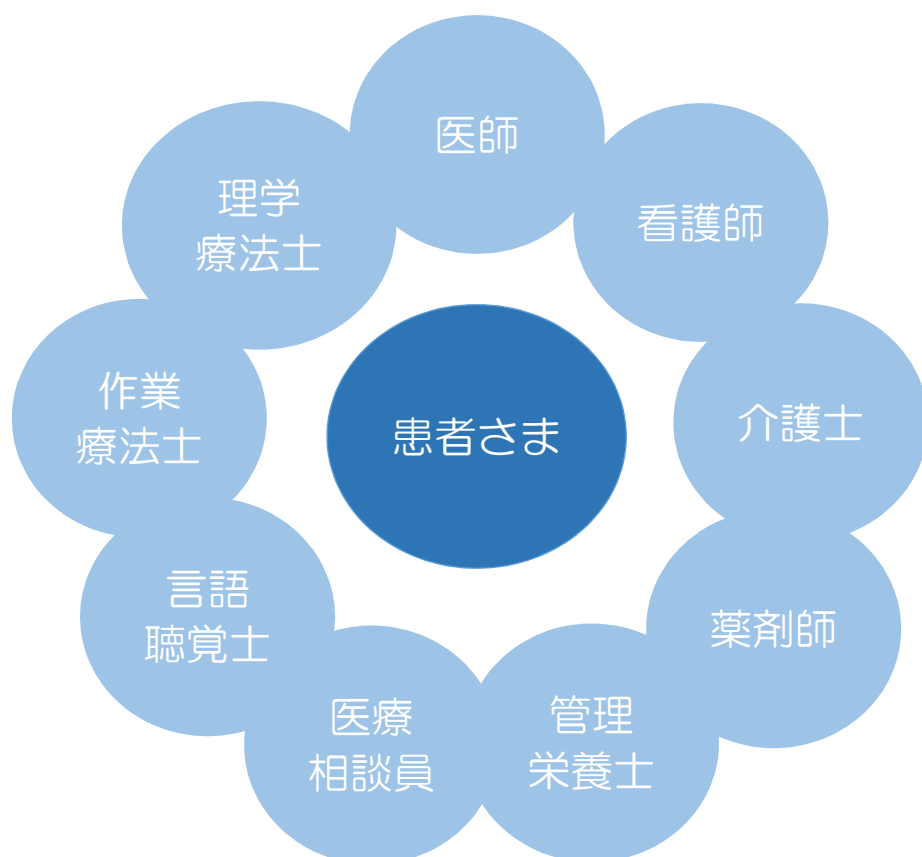


回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリテーション病棟とは

回復期リハビリテーション病棟は、病気やけがで急性期の医療を要する期間が終了しても、なお家庭復帰のために集中的なリハビリテーションアプローチが必要な方に、機能的な訓練だけでなく、病棟生活全般を含めて高度なリハビリテーションアプローチを行う病棟です。

患者・家族を中心として、さまざまな職種がチームとなってリハビリケアを行います。



当院回復期リハビリテーション病棟の特徴

- ▶ 患者・家族の希望をふまえて、生活の質（QOL）の向上を考えた目標をチームで立案します。各スタッフが目標に向けて、関わっていきます。



多職種の担当スタッフが、定期的集まり、情報共有や目標の立案、具体的な関わりなどを話し合います。

リハビリで「できる ADL（日常生活動作）」の向上を図り、病棟生活での「している ADL」に繋げていけるよう、チームで連携を密にとっています。

- ▶ 入院生活のすべての行動が、自宅に帰るためのリハビリになります。



朝起きてから、夜寝るまでの生活すべてがリハビリになります。なるべく自宅生活と同じように過ごして頂けるように朝・夕の着替え、食事は食堂へ、トイレ・洗面の誘導を行っています。

入浴は週2回以上行っています。

▶ 在宅復帰・社会復帰に向けた充実した取り組みを実施しています。



安全に自宅生活に戻っていただくために、実際にご自宅にうかがって、環境の調整や動作確認を行います。また、社会復帰に向けて屋外での歩行練習や買い物などの練習も実施しています。

必要に応じて、本人、家族、担当スタッフ、ケアマネージャー、福祉用具業者などが集まって、退院に向けた話し合いを行います。

▶ 集団での立ち上がり訓練、アクティビティーを実施しています。



集団での立ち上がり訓練は、筋力強化と全身耐久性の向上を図り、日常生活動作の向上につなげていけるように取り組んでいます。1日1回、みんなでかけ声をかけ合い、励まし合いながら、立ったり座ったりする運動を繰り返し行っています。

アクティビティーは、認知機能の維持・向上や活気の向上を目的に立ち上がり訓練に続いて実施しています。座ってできるラジオ体操や棒体操、季節の唱歌を歌いながら足の運動をしたりしています。他者との交流を図りながら、笑いの絶えない時間となっています。

➤ リハビリ栄養への取り組みを強化して行っています。



リハビリを行っている人の多くに低栄養を認めます。栄養状態が良好で栄養管理も適切であれば、筋肉量増加を目指したリハビリによる効果が期待できますが、低栄養の状態では、かえって栄養状態の悪化をもたらす可能性があります。

当院では、入棟当初より栄養の評価を行い、運動量と栄養量が適正となるようにチームで話し合いを行っています。また、希望者には栄養補助食品の提供も実施しています。

➤ 地域との切れ目のないリハビリの連携を行っています。



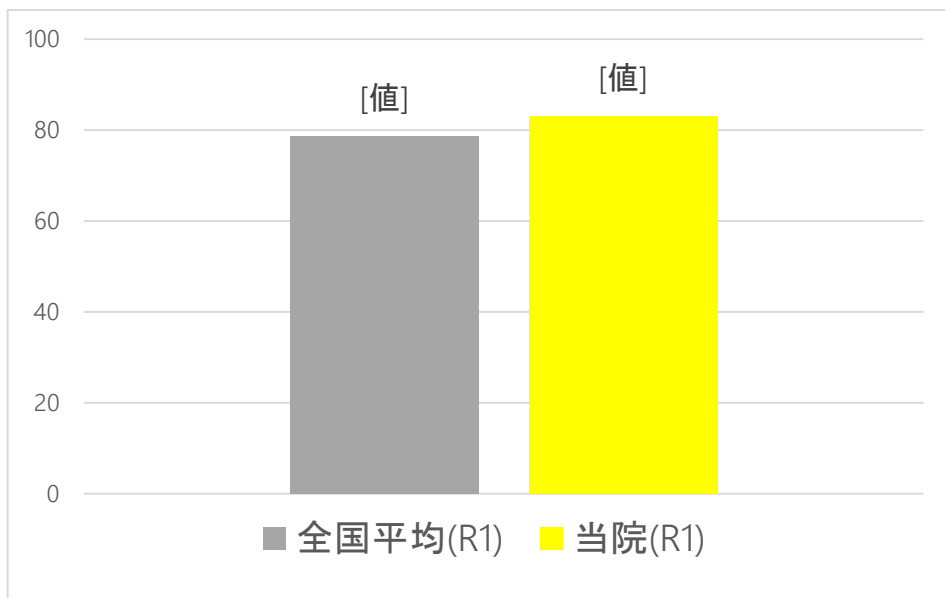
当院では、訪問リハビリ、通所リハビリが併設されています。必要に応じて退院後のリハビリサービスの提供を行い、切れ目のないリハビリの介入で安心してご自宅で過ごして頂けるよう連携を図っています。

また、地域スタッフと月1回勉強会を開催し、情報共有や入院生活の振り返りなどを行っています。

当院回復期リハビリテーション病棟の実績

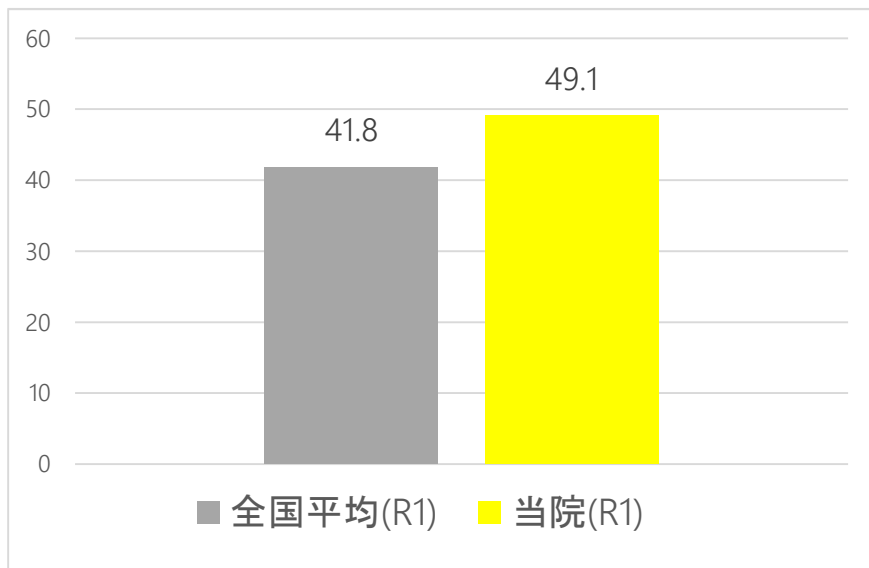
▶ 在宅復帰率

退院後、たくさんの方が在宅での日常生活を取り戻されています。



▶ リハビリ実績指数

より効果のある、質の高いリハビリを提供していきます。



リハビリ実績指数とは、リハビリテーションの効果を図る指標の一つです。
回復期リハビリテーション病棟から退院された患者さまの機能的自立度評価（FIM）が、
入棟時と比べてどのくらい回復したのかを点数化し、それに要した入院期間を所定の計
算式に当てはめて算出します。

$$\text{リハビリ実績} = \frac{\text{各患者の（FIM 得点【運動項目】の、退院時と入棟時の差）の総和}}{\left[\frac{\text{入棟から退棟までの在棟日数}}{\text{状態ごとの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数}} \right] \text{の総和}}$$